

資本は店の元手

～個人企業の資本～

講師
粕谷和生

第1回で「資本は資産から負債を差し引いた差額(資産－負債＝資本)である」と学びました。今回はガラリと変わり、「資本には店の元手」という意味もあることを学習します。「お店を始めるときの活動資金で元になるお金」という観点から資本を見てみましょう。

調べておこう・覚えておこう

元入れ・追加元入れ/
資本金／引き出し/
引出金／租税公課

資本の増加・減少

(1) 出資者・経営者・事業主

元手(元になるお金)を出すことを元入れ(出資)といい、元手を出した人のことを出資者といいます。また、店が繁盛するように店を運営する人のことを経営者といいます。ふつう個人商店では、出資者と経営者は同じ人で、そのような人を「事業主」といいます。

(2) 資本の増加・減少

第5回で学んだ開業時の元入れや第8回で学んだ決算時の当期純利益の振り替えによって資本は増加しました。さらに開業後の追加元入れによっても資本は増加します。

これに対して資本の減少は、決算時の当期純損失の振り替えや資本の引き出しによって起こります。今回はこのうち資本の追加元入れと資本の引き出しについて学びます。

資本の追加元入れ

元入れと追加元入れのどちらも事業主が出資することになりますが、開業後にさらに店を大きくしたいなど事業拡張のために新たに出資する場合を、特に「追加元入れ」といいます。元入れも追加元入れも資本が増加して、仕訳は次のようになります。

(借) 現金 ××× (貸) 資本金 ×××

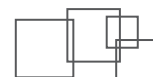
【例1】 さかっちは、現金¥600,000を元入れして開業した。

(借) 現金 600,000 (貸) 資本金 600,000

【例2】 事業拡張のため事業主さかっちが現金¥750,000を追加元入れした。

(借) 現金 750,000 (貸) 資本金 750,000

Key Word : 元入れ 追加元入れ



資本の引き出し

(1) 資本の引き出し

事業主が私用のために店の現金や商品などを使うことを資本の引き出しといいます。ここで「私用のため」というのは、店の経営とは関係ない個人的な用事という意味です。資本の引き出しは、元入れとは正反対の取引であって資本が減少します。

さかっち店長が同窓会費¥5,000を店の現金から引き出しますが、同窓会に行くのは、さかっち店長の個人的な用事すなわち「私用」であるため、資本の引き出しにあたります。仕訳は次のようになります。

(借) 資本金 5,000 (貸) 現金 5,000

また、事業主のさかっち店長が店の商品¥3,000を同窓会にお土産として持って行きますが、この場合も資本の引き出しにあたりますから、仕訳は次のようになります。

(借) 資本金 3,000 (貸) 仕入 3,000

上記の仕訳で貸方は「仕入」になることに注意してください。この点に関しては、

莉奈ちゃん → わたび～先生 → 祥伍君

のやりとりをとおして解説します。

Key Word : 資本の引き出し

ポイント 資本の引き出しは、元入れとは正反対の取引。

(2) 引出金勘定

資本の引き出しは、資本金勘定の借方に記入されます。引き出しが頻繁に行われると資本金勘定の借方の記入は煩雑になります。

そこで資本金勘定の借方記入の煩雑感をなくすために、資本の引き出しだけを専門に記入する勘定として「引出金勘定」を設けます。このあたりの引出金勘定誕生物語を番組では、「資本金勘定の借方だけ分身マシン」さかっち6号を使って説明します。

なお、番組の中で引出金勘定は資本金勘定の借方だけを担当する「分身の勘定」といっていますが、これは引出金勘定のイメージを強調するための表現で、学問上は資本金勘定の「評価勘定」といいます。

Key Word : 引出金勘定

(3) 個人企業の税金

個人企業に課せられる税金には、固定資産税・事業税・印紙税などがあります。これらは個人企業の経営に必要な費用であって「租税公課勘定」で処理します。

一方、所得税は事業主個人の所得に課せられる税金であるため、これを店の現金で納付した場合は、資本の引き出しとなります。番組には出てきませんが、住民税も同じです。

Key Word : 租税公課

ポイント 固定資産税・事業税・印紙税 → 費用 → 租税公課勘定
所得税・住民税 → 資本の引き出し → 引出金勘定

(4) 実践簿記演習

【例1】 事業主のさかっちは、店の現金¥10,000 を私用のために引き出した。

(借) 引出金 10,000 (貸) 現金 10,000

【例2】 事業主のさかっちは、所得税¥70,000 を店の現金で納付した。

(借) 引出金 70,000 (貸) 現金 70,000

【例3】 決算にあたり、引出金勘定の残高を資本金勘定に振り替えた。

(借) 資本金 80,000 (貸) 引出金 80,000

		引 出 金			
【例1】	現 金	10,000		【例3】	資 本 金
					80,000
【例2】	現 金	70,000			
		資 本 金			
【例3】	引 出 金	80,000	1 / 1	前期繰越	×××